施策評価シート(平成23 年度の振り返り、総括)

作成日 平成24年 07月 01日

施策 No.	23	施策名	廃棄物の抑制と適切な処理
主管課名	環境課	電話番号	0285-83-8126
関係課名	なし		

施策の対象	• ਜ	・市内で排出された廃棄物総量							
対象指標名	単位	17年度実績	18 年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22 年度実績	23年度実績	26年度見込
廃棄物の総処理量	t				25,729	24,913	24,493	24,815	23,383
もえるごみの排出量	t				20,160	19,541	19,443	19,313	18,207
処理人口	人				83,392	82,997	82,584	82,136	85,500

施策の意図			を抑制する に処理する						
成果指標設定の 考え方及び 指標の把握方法 (算定式など)	・ご とし ・適	・とちぎの廃棄物 ・ごみの発生を抑制していく意図の経年変化を見るために、成果指標をごみの総排出量 とした。 ・適正処理については、1人1日あたりのごみ排出量と最終処分場への埋立量の変化を 見ることで把握する。							
出田北 拥名									
成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度 基本計画目標値
成果指標名 1人1日あたりのごみの 排出量(含外国人)	単位 g	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20 年度実績	21年度実績		23 年度実績	基本計画目標値
	·	17年度実績	18年度実績	19年度実績			817	834	基本計画目標値 749
1人1日あたりのごみの 排出量(含外国人)	g	17年度実績	18年度実績	19年度実績	847	826	817 14.5	834 14.5	基本計画目標値 749 16.2
1人1日あたりのごみの 排出量(含外国人) 再資源化率	g %	17年度実績	18年度実績	19年度実績	847 15.5	826 15.3	817 14.5	834 14.5	基本計画目標値 749 16.2
1人1日あたりのごみの 排出量(含外国人) 再資源化率	g %	17年度実績	18年度実績	19年度実績	847 15.5	826 15.3	817 14.5	834 14.5	基本計画目標値 749 16.2
1人1日あたりのごみの 排出量(含外国人) 再資源化率	g %	17年度実績	18年度実績	19年度実績	847 15.5	826 15.3	817 14.5	834 14.5	基本計画目標値 749 16.2
1人1日あたりのごみの 排出量(含外国人) 再資源化率	g %	17年度実績	18年度実績	19年度実績	847 15.5	826 15.3	817 14.5	834 14.5	基本計画目標値 749 16.2
1人1日あたりのごみの 排出量(含外国人) 再資源化率	g %	17年度実績	18年度実績	19年度実績	847 15.5	826 15.3	817 14.5	834 14.5	基本計画目標値 749 16.2
1人1日あたりのごみの 排出量(含外国人) 再資源化率	g %	17年度実績	18年度実績	19年度実績	847 15.5	826 15.3	817 14.5	834 14.5	基本計画目標値 749 16.2

施策の成果向上に ▮。 向けての 住民と行政との 役割分担

- ・市民は、ごみの減量化と分別・資源化に協力する。 ・行政は、資源循環型社会の構築に向け、ごみ減量化と資源化を市民に働きかけをしていく

- 1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)
- (1)施策成果の時系列比較(過去3年間の比較)
 - ・平成7年から3種9分類18品目で分別収集を開始し、市民に分別の徹底を啓発している。
- ・焼却炉からの埋立物の容量が当初見込より大幅に減少し、最終処分場の延命化に つながっている。
- ・広域ごみ処理計画の中で、施設の1日の処理能力を180tから143tに縮小することでごみの減量化に取り組み、
- その条件とした10%(H19 H27)の減量化目標値を設定した。1日1人当たりのごみの排出量 H26目標 749g
- ・もえるごみは年々減少傾向にあるが、震災の影響でH23年度はその他粗大ごみが大幅に増加し総処理量が増えた。
- (2) 近隣他市との比較

H19 H23の排出総量の増減 真岡市 -4.78%、宇都宮市 -10.86%、足利市 -14.00%、下野市 -4.83%

益子町 +0.97%、茂木町 -5.02%、 市貝町

+3.67%、芳賀町 +5.13%、

足利市 H20からもえるごみの有料化 宇都宮市 H20年度から事業系の有料化(ステーション回収をやめる)

- (3)住民期待水準との比較
- ・H22年度からの地域ぐるみのごみの減量化の取り組みにより、一定の成果はあげたが目標とする10%減量には至らない。

1日1人当たりのごみの排出量 H23実績 834g、H26目標 749g、

・再資源化率は、H21年度15.3%からH23年度14.5%に0.8%減少している。要因として、新聞紙を民間収集業者が回収する

ことにより、市が回収する資源化物が減少したためと考えられる。

・市民意向調査では、住んでいる地域の生活環境のうち「ごみの収集」について、非常に良い21.2%、やや良い60.6%で

併せて81.8%の市民の方が良いと感じている。

23 年度の 評価結果

- 2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括
- ・ごみ減量の啓発事業:広報での周知のほか、話し合い事業・地域説明会等(68回)を開催し、雑紙の資源化や生ごみの水切りなどを

積極的に啓発した。

- ・優良資源ステーション表彰(10ヵ所)を継続して行い、分別徹底の定着化を図っている。
- ・地域ぐるみでのステーションの管理やごみ出しのマナーの徹底を図るため自治会加入 の周知に努めた。

自治会加入率(H21年度 85.7%、H22年度 83.8%、H23年度 81.9%)

- ・不法投棄対策として、清掃監視員によるパトロールや地域との連携、罰則があること の周知を図った。また、迅速な対応と
- 投棄されにくい環境づくりに努めた。 (H21年度:146件、H22年度:127件、H23年度:184件)
- ・ごみ有料化を導入している他自治体の、減量化実績の検証・調査を行った。
- ・東日本大震災により倒壊した瓦や大谷石等の災害廃棄物の受入れをH23.3.13から行っている

H23年度の受入量は、29,627 t であり、H23年度に受け入れたガレキは搬出完了。

23 年度の 評価結果

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

・地域づくり事業に、ごみ減量推進事業をメニュー化し、平成24年度までの3年間のうち に、全自治会での減量化の取組みを

支援していく。

・ごみ処理経費の削減、現有施設の延命化、広域ごみ処理施設に係わる減量目標値の達

成及び負担金の削減のために、更なる ごみの減量化を図るための、有効な手段として、広域ごみ処理が本格稼動するH26.4 を目標に、もえるごみの有料化を検討 することとした。

・東日本大震災により破損した瓦や大谷石等の災害廃棄物の受入れを引き続き実施し、そ の後の処理についても適正に実施していく。

23年度の 評価結果

植足事項			
	補兄事項		
	「「「たずべ		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		
	l		